

三重県環境審議会 廃棄物部会委員

氏 名	所属・役職
うきた みさと 浮田 美里	ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業 連携企業 (IX ホールディングス株式会社 経営企画本部)
おかじま けんじ 岡島 賢治	三重大学大学院生物資源学研究科 教授
おがわ きみこ 小川 喜美子	一般社団法人三重県産業廃棄物協会 (塩浜運送株式会社)
かたの のりゆき 片野 宣之	一般社団法人三重県清掃事業連合会 (有限会社三功)
かなもり しげゆき 金森 茂之	イオンリテール株式会社中部カンパニー
さじ たもつ 左路 有	三重県清掃協議会 (松阪市環境生活部清掃事業課)
はなしま あつこ 花嶋 温子	大阪産業大学建築・環境デザイン学部建築・環境デザイン学科 教授
まつふじ けんいち 松藤 賢一	三重県産業廃棄物対策推進協議会 (桑名金属工業株式会社)
みずはら けんすけ 水原 健介	環境省中部地方環境事務所
やまなか しげる 山中 繁	一般社団法人中部経済連合会 価値創造本部社会実装推進部

(50 音順 敬称略)

三重県環境審議会条例（抄）

（設置）

第一条 環境基本法（平成五年法律第九十一号）第四十三条第一項の規定に基づく審議会その他の合議制の機関として、三重県環境審議会（以下「審議会」という。）を置き、その組織及び運営に関しては、同条第二項の規定に基づき、この条例の定めるところによる。

（組織）

第二条 審議会は、委員三十人以内で組織する。

（委員）

第三条 委員は、環境の保全に関し学識経験のある者、県議会の議員及び関係行政機関の職員のうちから、知事が任命する。

2 学識経験のある者のうちから任命された委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

（会長及び副会長）

第四条 審議会に、会長一人及び副会長二人を置く。

2 会長及び副会長は、委員が互選する。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、あらかじめ会長の定めた順序で、その職務を代理する。

（会議）

第五条 審議会の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 審議会の会議は、委員の二分の一以上が出席しなければ開くことができない。

3 審議会の議事は、出席した委員の過半数が決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（専門委員）

第六条 審議会に、環境の保全に関する専門の事項を調査させるため、専門委員を置くことができる。

2 専門委員は、専門の学識経験のある者のうちから、知事が任命する。

（部会）

第七条 審議会は、その定めるところにより、部会を置くことができる。

2 部会に属させる委員及び専門委員は、会長が指名する。

3 部会に部会長を置き、その部会に所属する委員がこれを互選する。

4 部会長は、部会の会務を掌理する。

5 部会長に事故があるときは、当該部会に所属する者のうちからあらかじめ部会長が指名した者が、その職務を代理する。

（幹事）

第八条 審議会に、幹事若干名を置く。

2 幹事は、知事が指定する部内の職及び三重県教育委員会事務局の職にある者をもって充てる。

3 幹事は、審議会の所掌事務について、委員及び専門委員を補佐する。

(庶務)

第九条 審議会の庶務は、環境生活部において処理する。

(雑則)

第十条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

次期「三重県循環型社会形成推進計画」構成イメージ

第1章 計画の基本的な考え方

今回の議論内容

- 1 計画の策定趣旨
- 2 計画の位置づけ
- 3 計画の対象期間
- 4 基本理念

第2章 取組方向と施策

施策体系一覧

取組方向	主な内容
取組方向 1 安全・安心の確保	・循環資源のライフサイクルでの安全・安心の確保 ・優良な事業者・処理業者の育成 ・不法投棄等の不適正処理事案への対応
取組方向 2 循環資源の利用促進	・資源確保から生産、流通、使用、再使用、再資源化、廃棄等の全ての段階での徹底した資源循環の促進 ・動静脈連携（事業者間連携）を通じた市場価値創出の促進 ・地域のコーディネーター
取組方向 3 持続可能な廃棄物処理体制の確保	・災害時の廃棄物処理体制の強化・充実 ・ハード面・ソフト面での廃棄物処理体制の確保

第3章 計画の目標

第4章 計画の進行管理